

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

都道府県名 富山県

モデル市町村名 高岡市

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

モデル市町村における実施体制についてご記入ください。 ※アドバイザーは計上しないでください。

①実施体制

介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。
主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他	計
介護 予防 事業	高齢介護課	介護予防事業の企画・立案		3	1	1	5
	健康増進課	健康づくりボランティアに対する支援等			◎		0
モ デ ル 事 業	高齢介護課	介護予防自主活動の推進、モデル地区地域包括支援センター等との連絡調整			1		1
	健康増進課	地域関係団体との連携、アセスメントについての情報提供		1	◎		1

←主担当に◎を選択してください。

←主担当に◎を選択してください。

②連携体制

モデル事業に関する庁内及び職種間の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防主担当課以外の課 地域包括支援センター その他 	モデル地区地域包括支援センター及び健康増進課と事業の主旨、今後の介護予防の方向性について情報共有を行った。	保健と福祉それぞれの視点から地域づくりを行っており、連携が十分に図られているとは言えない。	地域包括支援センター、健康増進課がそれぞれで把握している地域アセスメントの情報を共有し、地域住民のニーズや地域の実情を把握したうえで、双方の視点から住民に対し働きかけを行っていく。
職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> 事務職、保健師、リハ職 その他 	特になし	それぞれの役割分担が現時点で明確になっていない。	行政の理学療法士が関わり、現状を把握したうえで、今後の関係職種との連携のあり方について整理していく。

③第6期介護保険事業計画

第6期介護保険事業計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

- 地域の実情に応じた効果的、効率的な介護予防事業を推進するため、地域づくりを視点とした事業を展開していく。
- 住民主体で相互に支え合いながら集まり、活動を行う体制整備を進めていく。
- 介護予防の担い手を養成し、身近な通いの場が創出できるような仕組みを作っていく。

2. 住民運営の通いの場の充実

①実施内容（概要）

モデル事業で実施した内容についてチェックしてください。

地域診断
 戦略策定
 関係者への働きかけ
 住民に対するアプローチ
 通いの場の立ち上げ
 通いの場を支える体制の構築
 その他 →

②実施内容（詳細）及び今後の課題

モデル事業で実施した内容の詳細について項目毎にご記入ください。

また、今回のモデル事業での実施経験を踏まえ、今後地域でどのように「住民運営の通いの場」を充実し、介護予防の推進をはかっていくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	(視点の例)	実施内容	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源（高齢者の集いの場、介護保険サービス外の生活支援サービス、地域組織活動等） 地域住民の状況 地域の課題・目標 	地域包括支援センターにより、地区の概要、地域資源について、統計資料や地区連合自治会長、地区連絡センター館長より地域の状況について聞き取りを行い、アセスメントシートを作成した。	他地区についても引き続き、健康づくり、介護予防の視点で地域アセスメントを実施していく。	◎	地域診断の結果を活かし、それぞれの地域の特性に合った介護予防による地域づくりが必要である。
戦略策定	<ul style="list-style-type: none"> 既に高岡市で取り入れられている「げんき高岡はつらつ体操」を基本に、体操プログラムを作成する。 参加者の意欲を引き出す等充実を図り、介護予防自主活動を継続するための体制を整える。 	地区の単一自治会での取り組みをモデルとして選定し、介護予防自主活動の場を立ち上げた。	26年度の取り組みや介護予防の必要性について、情報を発信し、活動の拠点を増やしていく。	◎	住民が主体となり、継続して健康づくり、介護予防に取り組めるような仕組みづくりが必要である。
関係者への働きかけ	≪誰にどのような働きかけをしたか≫ <ul style="list-style-type: none"> 保健所、保健センター リハビリテーション関連団体 社会福祉協議会、自治会、民生委員、老人クラブ、ボランティア、NPO 社会教育（生涯学習や生涯スポーツ等）関係団体 その他 	健康増進課、モデル地区連合自治会長に対し、事業の主旨、介護予防の必要性について、情報提供を行った。	モデル地区での取り組みを参考に、地域の実情に応じて実施していく。	◎	既存の介護予防活動についての情報を把握すること、関係機関との連携を通して、地域における介護予防活動を推進していくことが必要である。
住民に対するアプローチ	≪住民にどのようなアプローチをしたか≫ <ul style="list-style-type: none"> 説明会・講演会等 出前講座 周知・広報 その他 	<ul style="list-style-type: none"> モデル地区連合自治会長への説明会 モデル地区介護予防自主活動世話役への説明会 地区住民に対し、介護予防自主活動案内ちらしの配布 地域包括支援センターによる訪問 	モデル地区での取り組みを参考に、地域の実情に応じて実施していく。	◎	住民に対して伝える情報について、整理が必要である。

通いの場の立ち上げ、充実	<<どのように通いの場の立ち上げ支援を行ったか>> ・モデルとなる通いの場の立ち上げ ・誰が[関わった職種]、どのように[支援内容]、どれくらい[支援回数]立ち上げ支援したのか ・その他	・体操プログラムDVD作成事業者、行政理学療法士、健康増進課地区担当保健師 ・2月4日より4回程度支援予定	モデル地区での実施状況をみて、よりよい支援方法を検討していく。	◎	立ち上げ支援体制の構築と併せて、事業が必要な対象者を参加に繋げるための仕組みづくりについても検討が必要である。
	<<通いの場の実施状況>> ・通いの場の箇所数 ・参加者数 ・通いの場で行われている内容	・1箇所 ・参加者数 14名(2/4) ・開催頻度 週1回 ・体操プログラムDVDを用いた体操	・市内地域包括支援センター1箇所当たり2箇所程度、通いの場を立ち上げることを目標とする。		○
通いの場を支える体制の構築	・共通ルールの設定 ・リスク管理の方法 ・サポーター・リーダー育成 ・評価方法 ・その他	モデル地区での実施状況をみて、検討していく。	・介護予防自主活動の世話役、市内地域包括支援センター職員を対象とした情報交換及び研修の場を設定する。 ・リスク管理、緊急時の対応について、マニュアルを作成する。	◎	事故が発生した場合の対応について、検討が必要である。
その他	・既存事業の活用・整理 ・予算の確保 ・その他				

3. モデル事業を行った成果

①モデル事業を行った成果（職員の意識の変化、住民の意識の変化、住民の声など）

効果測定等のデータがある場合は、別途添付してください。

地域診断、戦略策定の作成、住民との情報交換を通して、地域における現状と課題、地域づくり及び介護予防における課題、今後の介護予防の進め方について、整理することができた。

Ⅱ モデル事業の実施を通して見えてきた「地域づくりによる介護予防の推進」に係る課題

1. 地域づくりによる介護予防の推進

新しい介護予防事業の実施にあたっては、「住民運営の通いの場」の充実だけでなく、介護予防活動の普及・啓発、住民主体のネットワークの形成、PDCAサイクルを意識した介護予防事業の運営が重要になります。以下の視点に基づき、今後地域でどのように介護予防を推進していくかについてご記入ください。※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	現時点での課題意識	今後の実施予定	優先度	実施時期	実施体制	実施する上での課題
介護予防活動の普及・啓発	特に事業の参加が必要な要支援者、後期高齢者に対する働きかけが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 地域の集まりの機会や訪問活動等を通して介護予防の必要性について、普及啓発を行っていく。 地域包括支援センターで実施している高齢者実態把握調査訪問等を通し、事業の参加が必要な対象者を把握していく。 	◎			事業参加により得られた効果をいかにわかりやすく伝え、参加者を増やしていくかについて、検討が必要である。
住民主体のネットワークの形成	ひとり暮らし高齢者、高齢者のみの世帯の増加により、生活支援ニーズが多様化している。	サービスの確保に向けて、既存のサービス、資源等を把握し、活用に繋げていく。併せて、介護予防自主活動に関わるボランティア、担い手を養成していく。	○			介護予防自主活動に関わるボランティア、担い手のマンパワー不足が想定される。
介護予防事業の評価	自主活動への継続参加を促すため、参加者の目に見えるように評価結果を示すことが必要である。	介護予防自主活動の場への訪問時に、評価結果についての情報提供、参加者への声かけを行っていく。	◎			参加者に生活上の変化を実感してもらえるような評価が必要である。
その他						

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

都道府県名

モデル市町村名

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

モデル市町村における実施体制についてご記入ください。 ※アドバイザーは計上しないでください。

①実施体制

介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。
 主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計	
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他		
介護 予防 事業	健康福祉課 保健センター	介護予防の企画・立案、介護予防ボランティア支援		7	1	1	9	←主担当に◎を選択してください。
	健康福祉課 高齢福祉係	地域支援事業の統括	2	◎		1	3	
							0	
モ デ ル 事 業	健康福祉課 保健センター	介護予防自主活動の推進		7	1	1	9	←主担当に◎を選択してください。
	健康福祉課 高齢福祉係	地域支援事業の統括	2	◎		1	3	
							0	

②連携体制

モデル事業に関する庁内及び職種間の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防主担当課以外の課 地域包括支援センター その他 	特になし	保健センターが主体で介護予防事業を行っており、福祉・保健がそれぞれの視点からの地域づくり・介護予防を行っているため、十分に連携がはかられているとはいえない。	地域包括支援センター・高齢福祉・保健センターそれぞれの立場からの情報共有を行い、定期的に今後進むべき方向を考える機会をもつける。
職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> 事務職、保健師、リハ職 その他 	それぞれの専門性をいかし、モデル事業の実施にあたった。	住民の心に響く伝わりやすいこれからの介護予防活動や支援方法について検討が必要	今後、地区で伝えるにあたり、明確な支援方法等を検討する

③第6期介護保険事業計画

第6期介護保険事業計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

介護予防の推進（地域支援事業の充実）	住民運営の通いの・の充実と高齢者の社会参加を通じた介護予防の推進
--------------------	----------------------------------

2. 住民運営の通いの場の充実

①実施内容（概要）

モデル事業で実施した内容についてチェックしてください。



地域診断



戦略策定



関係者への働きかけ



住民に対するアプローチ



通いの場の立ち上げ



通いの場を支える体制の構築



その他



②実施内容（詳細）及び今後の課題

モデル事業で実施した内容の詳細について項目毎にご記入ください。

また、今回のモデル事業での実施経験を踏まえ、今後地域でどのように「住民運営の通いの場」を充実し、介護予防の推進をはかっていくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	（視点の例）	実施内容	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断		<ul style="list-style-type: none"> 65才以上の高齢者に実施したときとチェックリストの結果からみえた地域診断の状況を地区の出前講座で発信した。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域診断の継続 	○	地域診断の内容を住民にしっかり伝えること
戦略策定		<ul style="list-style-type: none"> 地域運動指導リーダーを養成 介護予防の取り組みと必要性について地域運動指導リーダーに動機づけ、情報提供 地域運動指導リーダーが中心となって、運動継続DVDを作成 	<ul style="list-style-type: none"> モデル事業での戦略を軸にし、地域の特性を加味する 平成26年度の取り組みや介護予防の必要性について情報発信 運動継続DVDを普及→気軽に集まり、体操ができることをPRする 	○	いかに住民のやる気をひきだすか
関係者への働きかけ	≪誰にどのような働きかけをしたか≫ <ul style="list-style-type: none"> 保健所、保健センター リハビリテーション関連団体 社会福祉協議会、自治会、民生委員、老人クラブ、ボランティア、NPO 社会教育（生涯学習や生涯スポーツ等）関係団体 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防の取り組みと必要性について地域運動指導リーダーや生涯現役めざし隊（ボランティア団体）、サロン代表者会議（地区社協代表を含む）で動機付けと情報提供 事業が展開しやすいようにサロンを委託している社会福祉協議会との話し合いの場を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地区社協・福寿会・区長会等に住民運営の通いの場を設け、情報発信していく。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 地区役員の理解を得るように努めること
住民に対するアプローチ	≪住民にどのようなアプローチをしたか≫ <ul style="list-style-type: none"> 説明会・講演会等 出前講座 周知・広報 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 出前講座 広報活動(チラシ) 	<ul style="list-style-type: none"> 各地区に職員が出向き、プレゼンを行う。 広報活動(チラシ、ケーブルテレビ、広報紙等) 	○	住民が自らやりたいと思えるようなプレゼンが必要。関係職員同士の共通理解が必要。

<p>通いの場の立ち上げ、充実</p>	<p>《どのように通いの場の立ち上げ支援を行ったか》</p> <ul style="list-style-type: none"> モデルとなる通いの場の立ち上げ 誰が[関わった職種]、どのように[支援内容]、どれくらい[支援回数]立ち上げ支援したのか その他 	<ul style="list-style-type: none"> 地区から選ばれた地域運動指導リーダーが自分の関わりのある教室を土台に運動教室を展開した 技術指導、物品貸し出し 	<ul style="list-style-type: none"> 開催の土台をもたないリーダーを中央で実施している介護予防教室にて研修の実施 住民の意思で立ち上がった教室への立ち上げ支援内容・回数等の支援体制整備 	◎	立ち上げ支援体制の構築とあわせて、支援が必要な方の参加者をつなげる。
	<p>《通いの場の実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> 通いの場の箇所数 参加者数 通いの場で行われている内容 	<ul style="list-style-type: none"> 3箇所(上原10人、青木8人、新屋10人程度)スクエアステップ、ボール体操等 	<ul style="list-style-type: none"> 1地区1箇所(10地区)を目標に通いの場を立ち上げ(H27年度は3箇所を目標) 運動継続DVDを利用した体操の実施 地域運動指導リーダーや生涯現役めざし隊による体操レクリエーション等 	◎	地区の偏りがあるため全地区を広げる
<p>通いの場を支える体制の構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> 共通ルールの設定 リスク管理の方法 サポーター・リーダー育成 評価方法 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 地域運動指導リーダー養成講座の実施 運動継続できる媒体の作成(DVDの等)、ボランティアの支援体制整備 評価方法の決定 	<ul style="list-style-type: none"> 物品準備 リーダーの育成 	○	介護予防自主活動を支える担い手不足
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> 既存事業の活用・整理 予算の確保 その他 	<ul style="list-style-type: none"> ふれあいいきいきサロン事業の活用・整備 		○	

3. モデル事業を行った成果

①モデル事業を行った成果(職員の意識の変化、住民の意識の変化、住民の声など)

効果測定等のデータがある場合は、別途添付してください。

住民の声・・・仲間が増えて嬉しい、大声で笑いあえ明るい雰囲気である、近くに通える場所があるっていいな
 地域の人が集まり、体を動かすことのできる場所をつくりたい
 1人ではできないけど、仲間がいるとできる

Ⅱ モデル事業の実施を通して見えてきた「地域づくりによる介護予防の推進」に係る課題

1. 地域づくりによる介護予防の推進

新しい介護予防事業の実施にあたっては、「住民運営の通いの場」の充実だけでなく、介護予防活動の普及・啓発、住民主体のネットワークの形成、PDCAサイクルを意識した介護予防事業の運営が重要になります。以下の視点に基づき、今後地域でどのように介護予防を推進していくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	現時点での課題意識	今後の実施予定	優先度	実施時期	実施体制	実施する上での課題
介護予防活動の普及・啓発	平成27年度より、新総合事業への移行後は、基本チェックリストの配布がなくなるため、住民への介護予防活動の周知が困難になるため周知方法の見直しが必要	<ul style="list-style-type: none"> 事業PRのためのチラシ作成 地区活動でのPR 	◎			
住民主体のネットワークの形成	お世話役の負担が大きく、担い手がない。	お世話役への負担が大きくなるないように役割分担制を提案する	○			
介護予防事業の評価	現時点では、評価をしていないため、評価し、参加者に目が見えるように評価結果を示すことが必要。	評価結果を提示し、動機付けにつなげる	○			
その他						

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

都道府県名

石川県

モデル市町村名 金沢市

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

モデル市町村における実施体制についてご記入ください。 ※アドバイザーは計上しないでください。

①実施体制

介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。
主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他	
介護 予防 事業	健康総務課	執行課	1		1 ◎	2	←主担当に◎を選択してください。
	介護保険課	予算課				0	
						0	
モ デ ル 事 業	健康総務課	実施課			1 ◎	1	←主担当に◎を選択してください。
	介護保険課	申込み課	1			1	
						0	
						0	

②連携体制

モデル事業に関する庁内及び職種間の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防主担当課以外の課 地域包括支援センター その他 	高齢者担当課との情報交換	地域における既存の通いの場の把握が十分ではなかった。	地域包括支援センターと連携しながら各地域の情報を収集する
職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> 事務職、保健師、リハ職 その他 	事務職		

③第6期介護保険事業計画

第6期介護保険事業計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

[介護予防] 1 介護予防の推進、2 地域主体の健康づくり事業の充実と全市的な展開、3 心身機能のみならず社会参加を意識した介護予防事業の展開、4 重症化リスクを抱えた高齢者に対する個別指導の強化、5 スポーツイベントと連携した健康づくりの裾野の拡大
 [生活支援] 1 地域課題に対応するための生活支援の充実、2 高齢者の社会参加の促進、3 安心して暮らせる生活環境の整備、4 高齢者・家族の人権尊重と権利保障

2. 住民運営の通いの場の充実

①実施内容（概要）

モデル事業で実施した内容についてチェックしてください。

- | | | | |
|---|---|---|--|
| <input type="checkbox"/> 地域診断 | <input type="checkbox"/> 戦略策定 | <input checked="" type="checkbox"/> 関係者への働きかけ | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 住民に対するアプローチ | <input checked="" type="checkbox"/> 通いの場の立ち上げ | <input checked="" type="checkbox"/> 通いの場を支える体制の構築 | <input type="checkbox"/> その他 → |

②実施内容（詳細）及び今後の課題

モデル事業で実施した内容の詳細について項目毎にご記入ください。

また、今回のモデル事業での実施経験を踏まえ、今後地域でどのように「住民運営の通いの場」を充実し、介護予防の推進をはかっていくかについてご記入ください。
 ※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	(視点の例)	実施内容	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断					
戦略策定					
関係者への働きかけ	≪誰にどのような働きかけをしたか≫ ・保健所、保健センター ・リハビリテーション関連団体 ・社会福祉協議会、自治会、民生委員、老人クラブ、ボランティア、NPO ・社会教育（生涯学習や生涯スポーツ等）関係団体 ・その他	善隣館に対しモデル事業の実施を依頼。	金沢市老人連合会、民生委員児童委員協議会、善隣館、地域包括支援センター、各地区の健康推進連絡会	◎	
住民に対するアプローチ	≪住民にどのようなアプローチをしたか≫ ・説明会・講演会等 ・出前講座 ・周知・広報 ・その他	モデル事業実施にあたり、善隣館から担当の3地区に対してチラシを配布。	実施主体からのチラシの配布や地域包括支援センター、保健師による出前講座	○	元々地域での何らかの会に所属している方々であり、その場に参加していない人へのアプローチ。

通いの場の立ち上げ、充実	<<どのように通いの場の立ち上げ支援を行ったか>> ・モデルとなる通いの場の立ち上げ ・誰が[関わった職種]、どのように[支援内容]、どれくらい[支援回数]立ち上げ支援したのか ・その他	開始前に作業療法士が体力測定と体操の指導を行った。開始後体力測定と実際の場面について各々2回支援した。	実施主体に対し事前に体力測定の方法や事業趣旨の説明。	○	市民自身は何かしてもらえらるという受け身であり、実施主体も何かしたい意識の人々の意識変革が難しい。
	<<通いの場の実施状況>> ・通いの場の箇所数 ・参加者数 ・通いの場で行われている内容	1箇所実施し、13回実施の時点で248人参加。体力測定といぎいぎ百歳体操を行っている。			
通いの場を支える体制の構築	・共通ルールの設定 ・リスク管理の方法 ・サポーター・リーダー育成 ・評価方法 ・その他	評価は体力測定。善隣館職員が前で体操のインストラクターをしているが、4回目から参加者2名も交代で前に出て体操を実施。	地域における健康づくりリーダーを巻き込んだ運営	◎	健康づくりリーダーといえども市民であり、事故等の発生時の対応が出来るか。
その他	・既存事業の活用・整理 ・予算の確保 ・その他		類似事業を2箇所で実施予定。作業療法士会へ講師委託と重錘バンドの予算を確保した。	△	金沢市内の62地区で年6回程度の頻度で健康づくりの教室が開催されていることや月1回程度の頻度で「地域サロン」など実施しているため整理が必要。

3. モデル事業を行った成果

①モデル事業を行った成果（職員の意識の変化、住民の意識の変化、住民の声など）

効果測定等のデータがある場合は、別途添付してください。

それぞれの項目の測定値を、分散が等しくないと仮定した2標本によるt-検定を実施。どの項目において危険率5%において有意差なし。

	開眼片足				TUG				5m歩行速度			
	初回		3ヶ月		初回		3ヶ月		初回		3ヶ月	
	測定値	得点	測定値	得点	測定値	得点	測定値	得点	測定値	得点	測定値	得点
A(女)	25	4	60	5	5.2	5	8.0	4	2.9	5	3.2	5
B(女)	60	5	60	5	5.3	5	5.5	5	2.9	5	3.2	5
C(女)	60	5	60	5	4.4	5	4.8	5	2.7	5	3.3	5
D(女)	11	3	34	4	6.0	4	6.7	3	3.4	5	3.2	5
E(女)	14	3	9	2	5.3	5	6.1	3	2.9	5	2.5	5
F(女)	12	3	9	2	11.7	1	7.5	2	4.0	4	5.1	2
G(女)	60	5	60	5	5.3	5	6.6	3	3.3	5	3.2	5
H(女)	9	2	10	3	11.1	1	8.9	1	3.7	5	3.9	4
I(女)	7	2	10	3	6.1	4	7.6	2	3.1	5	3.3	5
平均	28.7	3.6	34.7	3.8	6.7	3.9	6.9	3.1	3.2	4.9	3.4	4.6

※得点は最大5点。最小1点。

Ⅱ モデル事業の実施を通して見えてきた「地域づくりによる介護予防の推進」に係る課題

1. 地域づくりによる介護予防の推進

新しい介護予防事業の実施にあたっては、「住民運営の通いの場」の充実だけでなく、介護予防活動の普及・啓発、住民主体のネットワークの形成、PDCAサイクルを意識した介護予防事業の運営が重要になります。以下の視点に基づき、今後地域でどのように介護予防を推進していくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	現時点での課題意識	今後の実施予定	優先度	実施時期	実施体制	実施する上での課題
介護予防活動の普及・啓発	介護予防は「介護」という言葉がつくため市民の反応は良くないため呼び方の変更が重要である。また70歳未満の方では就労をしている方が多く介護予防は関係がないと思っている市民が多い。	介護予防ではなく「生涯を通じた健康づくり」という視点で普及啓発する。教室や講演会を実施予定。	○		関係団体への委託	参加者が限られており、本当に必要な方に情報が伝わりにくい。
住民主体のネットワークの形成	70歳未満の方は就労をしており、介護予防に関心が低いなかでネットワークの形成は難しい課題である。	既存にある会に説明していきたい。	◎			
介護予防事業の評価	要支援や軽度の要介護認定者が多い。	要支援認定者等の推移を見ていく中で、その要因を検討する。	△			
その他	身体機能面だけではなくとなっているが「活動」「社会参加」へのアプローチに対して保健や福祉の分野だけでなくもっと横断的なアプローチが必要である。		△			厚労省と農水省など国レベルで連携を模索して欲しい。

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

都道府県名 モデル市町村名

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

モデル市町村における実施体制についてご記入ください。 ※アドバイザーは計上しないでください。

①実施体制
介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。
主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計	
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他		
介護 予防 事業	介護予防課			2 ◎	1	3	←主担当に◎を選択してください。	
						0		
						0		
						0		
モ デ ル 事 業	介護予防課			2 ◎	1	3	←主担当に◎を選択してください。	
						0		
						0		
						0		

②連携体制
モデル事業に関する庁内及び職種間の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防主担当課以外の課 地域包括支援センター その他 	<ul style="list-style-type: none"> 健康福祉課（健康推進係：健診・指導、自主運動クラブ） 社会福祉協議会（サロン・地域づくり） 総務課（総務係：町会・区長会） 都市建設課（管理計画係：市営住宅） 	<ul style="list-style-type: none"> 業務担当制のため目的によって関わる課が重複 地域づくりにおける役割分担が不明確 町会区長会をはじめ住民への周知が不十分 市営住宅老朽化に伴う転居により孤立高齢者増加のおそれ 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の事業の情報共有、連携、見直し 通いの場づくりの拡大における連携
職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> 事務職、保健師、リハ職 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 保健師、リハ職（OT） 		<ul style="list-style-type: none"> いきいき百歳体操普及の体系化 いきいき百歳体操支援講座のマニュアル化

③第6期介護保険事業計画

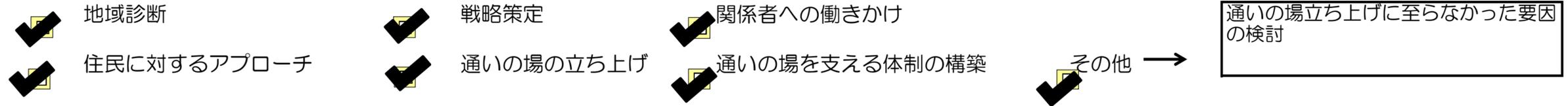
第6期介護保険事業計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

- ・基本理念：～地域が一体となって支える健康・福祉のまちづくりを目指します～
- ・基本目標：1. いきいきと安心して地域で暮らせる 2. 住み慣れた地域での生活が継続できる 3. 自分にあった介護保険サービスを適切に利用できる
- ・基本施策：1. 高齢者の健康づくり・生きがいづくりの推進 2. 地域のネットワークづくりの強化 3. 介護予防の推進

2. 住民運営の通いの場の充実

①実施内容（概要）

モデル事業で実施した内容についてチェックしてください。



②実施内容（詳細）及び今後の課題

モデル事業で実施した内容の詳細について項目毎にご記入ください。

また、今回のモデル事業での実施経験を踏まえ、今後地域でどのように「住民運営の通いの場」を充実し、介護予防の推進をはかっていくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	(視点の例)	実施内容	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断		<ul style="list-style-type: none"> ・既存データの整理（高齢者人口・要介護認定者数等） ・地域資源の整理【人・組織】（自治会・民生委員・老人クラブ等） ・地域資源の整理【場所・移動手段】（施設の利用状況等） ・行政課題の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存データの経年変化把握（全体・地区別・町会別） ・2号被保険者介護保険申請状況の経年変化把握（新規申請者の原因疾病と保険分類） 	○	
戦略策定		<ul style="list-style-type: none"> ・地区老人クラブ健康教室に4回コースの元気アップ教室を新たにメニュー化 ・老人クラブ総会、民生委員総会での周知 ・介護予防サポーター養成講座の実施 ・流川老人クラブ、岸川いきいきクラブにおける通いの場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・岸川いきいきクラブにおける継続支援と効果検証 ・継続実施団体への錘の貸し出しと数の確保 ・市や地区ごとの高齢者の現状、将来予測、法改正の周知 ・地区老人クラブ健康教室に4回コースの元気アップ教室を継続実施し、新規の立ち上げを支援 ・町会区長会、老人クラブ総会、民生委員総会での周知 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・椅子やDVDなど体操に必要な物品の準備が困難
関係者への働きかけ	<p>《誰にどのような働きかけをしたか》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健所、保健センター ・リハビリテーション関連団体 ・社会福祉協議会、自治会、民生委員、老人クラブ、ボランティア、NPO ・社会教育（生涯学習や生涯スポーツ等）関係団体 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健福祉センター（保健所） ・健康福祉課 ・総務課 ・都市建設課 ・生涯学習課 ・社会福祉協議会、民生委員、老人クラブ、地域密着型サービス事業所、NPO、文化活動団体：現状把握と課題の分析・共有及び役割分担の整理 ・高齢者ニーズ調査でボランティア活動を希望すると回答のあった方 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健福祉センター（保健所）：地区診断支援 ・健康福祉課：自主運動クラブにおける情報提供 ・総務課：町会区長会役員への協力依頼 ・都市建設課：市営住宅高齢者の孤立化予防と通いの場づくり ・社会福祉協議会、民生委員、老人クラブ、NPO、文化活動団体：現状把握と課題の分析 ・高齢者ニーズ調査でボランティア活動を希望すると回答のあった方、地域密着型サービス事業所：介護予防サポーター養成講座受講案内 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりにおける関係機関の役割分担が不明確

住民に対するアプローチ	<p>《住民にどのようなアプローチをしたか》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明会・講演会等 ・出前講座 ・周知・広報 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブ等対象の介護予防教室における体操効果の周知と体操の体験講座の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・市や地区ごとの高齢者の現状と将来予測、法改正についての周知 ・老人クラブ等対象の介護予防教室における体操効果の周知と体操の体験講座の開催 ・介護予防あれこれ講座の内容充実 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・市民に対する高齢者の現状と将来予測、法改正についての周知が不十分 ・市民・支援者ともに「行政主体」から「住民主体」への意識改革が必要
通いの場の立ち上げ、充実	<p>《どのように通いの場の立ち上げ支援を行ったか》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルとなる通いの場の立ち上げ ・誰が[関わった職種]、どのように[支援内容]、どれくらい[支援回数]立ち上げ支援したのか ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ★岸川いきいきクラブの立ち上げ支援 ・職種：作業療法士1、保健師2 ・支援内容：4回コースの元気アップ教室終了後の継続支援としていきいき百歳体操支援講座4回開催 ・その他：体操の実施に必要な椅子の準備協力・錘の貸し出し 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区リーダー（老人クラブ会長、民生委員、町会 区長会長、サロンリーダー、介護予防サポーター、ボランティア希望者等）への周知と理解を得る 	◎	
	<p>《通いの場の実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通いの場の箇所数 ・参加者数 ・通いの場で行われている内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・通いの場の箇所数：1箇所（岸川いきいきクラブ） ・参加者数：実22人、1回平均11人（8～16人/回）参加 ・開催頻度：1回/週（木曜日13：30～14：30） ・通いの場で行われている内容：いきいき百歳体操スペシャル版・茶話会 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規立ち上げ支援 ・通いの場の継続支援（相談・体力測定による評価） 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・既存グループは開催内容・頻度を変更することに対して抵抗感が強い
通いの場を支える体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・共通ルールの設定 ・リスク管理の方法 ・サポーター・リーダー育成 ・評価方法 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通ルール：サポーターが最低1名以上いる、最低3ヶ月は継続、参加者が5人以上いる、週1～2回開催する、地域の方が誰でも参加できる ・リスク管理の方法：病歴の把握と、体操を行う際に注意すること・運動前後の健康管理の指導 ・サポーター養成講座の開催 ・評価項目：5m歩行テスト、握力、開眼片足立ち、30秒椅子立ち上がりテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・通いの場継続支援のためのルールづくり（サポーター活用方法・支援頻度・支援内容のマニュアル化・保険加入等） ・体操継続の効果検証 	○	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・既存事業の活用・整理 ・予算の確保 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存事業の把握：健康クラブ、自主運動クラブ、文化活動団体 ・予算の確保：錘の購入 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施団体への錘の貸し出しと数の確保 ・既存団体への周知 	◎	

3. モデル事業を行った成果

①モデル事業を行った成果（職員の意識の変化、住民の意識の変化、住民の声など）

効果測定等のデータがある場合は、別途添付してください。

- ・市民への働きかけで「体操に取り組んでみませんか」との表現を使った際に、「体操を引き受けてくれる地区がなくて行政が困っているのならやっても良い」と言われた。意識改革が必要なのは市民だけではなく関わるスタッフ自身にも問題があったのだと気づかされた。今後、市民への働きかけをどのように行っていくかが課題である。
- ・体操継続による日常生活動作のしやすさ（長い距離でも歩けるようになった、立ち座りが楽になったなど）や体操終了後にお茶を飲みながらのサロン会が開催されるようになり、交流機会の確保による精神的安定（週に1回の体操が待ち遠しい、いつでも気軽に参加できる場があることがうれしい）に関する声が多く聞かれている。
- ・いきいき百歳体操周知の際に「百歳の人が行う体操」とのイメージを持った方が多かった。このため、当市では「めざせ！ いきいき百歳体操」として普及している。

Ⅱ モデル事業の実施を通して見えてきた「地域づくりによる介護予防の推進」に係る課題

1. 地域づくりによる介護予防の推進

新しい介護予防事業の実施にあたっては、「住民運営の通いの場」の充実だけでなく、介護予防活動の普及・啓発、住民主体のネットワークの形成、PDCAサイクルを意識した介護予防事業の運営が重要になります。以下の視点に基づき、今後地域でどのように介護予防を推進していくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	現時点での課題意識	今後の実施予定	優先度	実施時期	実施体制	実施する上での課題
介護予防活動の普及・啓発	<ul style="list-style-type: none"> 市民に対する高齢者の現状と将来予測、法改正についての周知が不十分 地域包括支援センターの認知度は4割弱である（H26年度高齢者ニーズ調査より） 	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防あれこれ講座の内容充実 介護予防活動における相談窓口の周知 要支援者の情報収集・把握体制の構築（多職種連携） 	◎	平成27年度		
住民主体のネットワークの形成	<ul style="list-style-type: none"> 地区リーダー（老人クラブ役員、民生委員・児童委員、区・長会長等）への理解を得ることが必要 地域課題の明確化と課題解決に向けた取組の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 地区単位で地域ケア会議を開催し、課題解決に向けた取組を推進する 地区課題に対する高齢者の主体的参加を促す 通いの場づくりの充実 	○	平成27年度		
介護予防事業の評価	<ul style="list-style-type: none"> 体力測定、アンケート調査等による継続的評価の必要性 	<ul style="list-style-type: none"> 体力測定などによる効果の見える化により、各種講座等で広く周知 	○	平成27年度	通いの場立ち上げ 初回・3カ月後・ 6カ月後・1年後 に実施	
その他						

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

都道府県名 モデル市町村名

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

モデル市町村における実施体制についてご記入ください。 ※アドバイザーは計上しないでください。

①実施体制
介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。
主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計	
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他		
介護 予防 事業	福祉課			1 ◎			1	←主担当に◎を選択してください。
						0		
						0		
						0		
モ デ ル 事 業	福祉課			3 ◎			3	←主担当に◎を選択してください。
						0		
						0		
						0		

②連携体制
モデル事業に関する庁内及び職種間の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防主担当課以外の課 地域包括支援センター その他 	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センター 保健所 	<ul style="list-style-type: none"> 他課及び課内では情報等を得ることはできた が、連携をとるまでには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域づくりの視点から、課内での情報共有、連携を図る。
職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> 事務職、保健師、リハ職 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 事務職、保健師 		<ul style="list-style-type: none"> 地域づくりの視点から、課内での情報共有、連携を図る。

③第6期介護保険事業計画

第6期介護保険事業計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

高齢者本人へのアプローチに加え、生活環境の調整や、地域の中に生きがい・役割を持って生活できるような居場所や出番づくりなど、高齢者本人を取り巻く環境への支援を含めたバランスのとれたアプローチを行う。
 ・介護予防事業（予防教室等）について、誰もが通いやすい場として充実させることで、社会参加や生きがいづくりを通じた効果的な介護予防への取り組みをすすめていく。

2. 住民運営の通いの場の充実

①実施内容（概要）

モデル事業で実施した内容についてチェックしてください。

- 地域診断 戦略策定 関係者への働きかけ
 住民に対するアプローチ 通いの場の立ち上げ 通いの場を支える体制の構築 その他 →

②実施内容（詳細）及び今後の課題

モデル事業で実施した内容の詳細について項目毎にご記入ください。

また、今回のモデル事業での実施経験を踏まえ、今後地域でどのように「住民運営の通いの場」を充実し、介護予防の推進をはかっていくかについてご記入ください。
 ※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	(視点の例)	実施内容	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断		<ul style="list-style-type: none"> 人口動態・介護保険・死亡統計 地域資源の整理（人・組織・場所・移動手 段） 行政課題の整理 	<ul style="list-style-type: none"> データの読み取りから評価、課題の整理を行 う。 	○	
戦略策定		<ul style="list-style-type: none"> 啓発普及（地区診断より見えた課題・いきい き体操教室の実施） 町老人クラブ連合会役員会、民生委員への働 きかけ 住民主体による教室実施への働きかけ 	平成26年度同様、啓発普及及び住民主体の教 室実施への働きかけを行う。	△	
関係者への働きかけ	«誰にどのような働きかけをしたか» ・保健所、保健センター ・リハビリテーション関連団体 ・社会福祉協議会、自治会、民生委員、老人クラ ブ、ボランティア、NPO ・社会教育（生涯学習や生涯スポーツ等）関係団体 ・その他	<ul style="list-style-type: none"> 保健所 老人クラブ（町及び地区） 民生委員 	<ul style="list-style-type: none"> 保健所 老人クラブ 民生委員 	○	<ul style="list-style-type: none"> 左記以外への働きかけが できるのか、検討が必要。
住民に対するアプ ローチ	«住民にどのようなアプローチをしたか» ・説明会・講演会等 ・出前講座 ・周知・広報 ・その他	<ul style="list-style-type: none"> 教室開催（地区診断より見えた課題・いきい き体操教室の実施）：15会場 	<ul style="list-style-type: none"> 教室開催（地区診断より見えた課題・いきい き体操教室の実施） 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 老人クラブがない地区へ の働きかけについて。

通いの場の立ち上げ、充実	<p>《どのように通いの場の立ち上げ支援を行ったか》</p> <ul style="list-style-type: none"> モデルとなる通いの場の立ち上げ 誰が[関わった職種]、どのように[支援内容]、どれくらい[支援回数]立ち上げ支援したのか その他 	<ul style="list-style-type: none"> 担当保健師と保健所保健師が各地区の老人クラブで啓発普及を実施し、下記の要領で開催を募集 <ul style="list-style-type: none"> ★開催に向け準備してほしいこと・会場・椅子・テレビ・DVDプレーヤー ★開催の条件・週1～2回の開催・最低3カ月は継続・地域の誰でもが参加可能であること ★町の支援・体操のDVD、おもりの無料貸し出し 最初の4回の技術支援・体力測定（初回と3か月後） 「やりたい」と思われる地域があれば、支援します！興味のある方は、保健センターまでご連絡をください。 3地区より開催の希望があり、支援を開始。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度同様、啓発普及を行い、教室開催を募集し、立ち上げの支援を行う。 	◎	
	<p>《通いの場の実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> 通いの場の箇所数 参加者数 通いの場で行われている内容 	<ul style="list-style-type: none"> 通いの場の箇所数：3か所 参加者数：45人（23人、21人） 1か所は今後開始 開催頻度：週1回 通いの場で行われている内容：いきいき百歳体操の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度開始した通いの場の継続への支援 	○	<ul style="list-style-type: none"> 継続実施できるような具体的な支援方法
通いの場を支える体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 共通ルールの設定 リスク管理の方法 サポーター・リーダー育成 評価方法 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 教室開催へ向け、条件を提示 評価は体力測定と基本チェックリストで実施 	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度開始した通いの場の中から、サポーター育成を行う。 	○	
その他	<ul style="list-style-type: none"> 既存事業の活用・整理 予算の確保 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 一次予防事業として、位置づけ。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般予防事業として、おもりを購入予定。 	○	

3. モデル事業を行った成果

①モデル事業を行った成果（職員の意識の変化、住民の意識の変化、住民の声など）

効果測定等のデータがある場合は、別途添付してください。

当町では、行政主体の事業が中心であり、今回の住民主体の通いの場が本当に立ち上がるのか不安であったが、町内15の老人クラブの協力により啓発普及（地区診断から見えた課題、いきいき体操教室の実施）を行ったところ、「やりたい！」と声が聞かれ、3か所もの通いの場ができた。「住民を信じる」とモデル事業の中で何度か話が出ていたが、私たち職員が住民に対して「〇〇だろう」と思い込んでいたところがあったんだなと感じた。事業の開始がH27年2月のため、立ち上げによる住民の意識の変化、成果はこれからになるが、体力測定や基本チェックリストによる意識の変化から、成果や新たな課題が見えてくるのではないかと考えている。また、民生委員からは、「地域に通える場があることで、気になる高齢者に声をかけやすくなるので、こんな場が欲しかった」という声が聞かれ、1つの場でも、様々な職種がかかわることによって、各々の目的に応じた関わりができるのだと思った。今回の地区診断では他課との情報交換や地域での実態把握が十分できていない点もあり、既存の物を整理することでさらに、介護予防の視点に立った取り組みが広がると思う。

Ⅱ モデル事業の実施を通して見えてきた「地域づくりによる介護予防の推進」に係る課題

1. 地域づくりによる介護予防の推進

新しい介護予防事業の実施にあたっては、「住民運営の通いの場」の充実だけでなく、介護予防活動の普及・啓発、住民主体のネットワークの形成、PDCAサイクルを意識した介護予防事業の運営が重要になります。以下の視点に基づき、今後地域でどのように介護予防を推進していくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	現時点での課題意識	今後の実施予定	優先度	実施時期	実施体制	実施する上での課題
介護予防活動の普及・啓発	・前期高齢者への普及、啓発が不足	・2号被保険者の申請理由は脳梗塞が多いことから、生活習慣病予防について、周知していく。	◎	平成28年度		
住民主体のネットワークの形成	・現状の把握が不足	・現状の把握、課題整理	○	平成27年度		
介護予防事業の評価	・評価方法について		○	平成27年度		
その他						

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

都道府県名

モデル市町村名

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

モデル市町村における実施体制についてご記入ください。 ※アドバイザーは計上しないでください。

①実施体制

介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。
主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計	
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他		
介護 予防 事業	地域包括支援センター	介護予防全般		3		2	5	←主担当に◎を選択してください。
	健康増進センター	介護予防事業・二次予防事業（栄養改善）		◎ 3		1	4	
							0	
							0	
モ デ ル 事 業	地域包括支援センター			2		1	3	←主担当に◎を選択してください。
	珠洲市総合病院			◎	1		1	
							0	
							0	

②連携体制

モデル事業に関する庁内及び職種間の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防主担当課以外の課 地域包括支援センター その他 	<ul style="list-style-type: none"> 地域診断時での情報収集・共有、普及啓発 健康増進センター 教育委員会、公民館 社会福祉協議会 	生涯を通じた健康づくり・地域づくりの役割分担の不明確さ	各機関との連携、情報共有によりできることの見直し
職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> 事務職、保健師、リハ職 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 保健師 リハ職：リーダー研修への参加 	リハ職からの支援方法	地域ケア会議の開催

③第6期介護保険事業計画

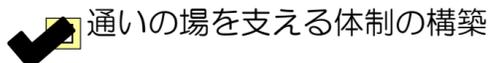
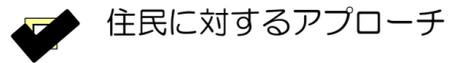
第6期介護保険事業計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

地域包括ケアの推進。
介護予防・日常生活支援総合事業の導入準備（H27～H28年度：サービス提供体制の構築に向けた検討。H29年度開始予定）
地域リハビリテーション活動支援事業の実施（ロコモティブシンドローム予防筋力アップ体操等の取り組み）。
住民主体の介護予防の推進等。

2. 住民運営の通いの場の充実

①実施内容（概要）

モデル事業で実施した内容についてチェックしてください。



②実施内容（詳細）及び今後の課題

モデル事業で実施した内容の詳細について項目毎にご記入ください。

また、今回のモデル事業での実施経験を踏まえ、今後地域でどのように「住民運営の通いの場」を充実し、介護予防の推進をはかっていくかについてご記入ください。
 ※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	(視点の例)	実施内容	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断		<ul style="list-style-type: none"> 既存データの整理(高齢者人口・要介護認定者数等) 地域資源の整理【人・組織】(自治会・民生委員・老人クラブ等) 地域資源の整理【場所・移動手段】(施設の利用状況等) 行政課題の整理 	<ul style="list-style-type: none"> 既存データの経年変化継続把握(地区別) 	◎	
戦略策定		<ul style="list-style-type: none"> 珠洲市5地区での介護予防講座を実施 公民館だより等で参加者募集 基本チェックリスト結果で抽出した二次予防対象者に個別案内 百歳体操希望地区での実施：住民主体で!! 	<ul style="list-style-type: none"> 要介護3以上の割合が高い地区への介入強化 H26年度未実施地区(5地区)での介護予防講座の実施 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 26年度介護予防講座実施地区で、百歳体操の継続参加が困難だった地区 →繰り返し普及していく ・男性への効果的アプローチ方法(参加者が少ない)
関係者への働きかけ	<<誰にどのような働きかけをしたか>> ・保健所、保健センター ・リハビリテーション関連団体 ・社会福祉協議会、自治会、民生委員、老人クラブ、ボランティア、NPO ・社会教育(生涯学習や生涯スポーツ等)関係団体 ・その他	<ul style="list-style-type: none"> リーダー研修への参加勧奨 リハビリスタッフ、グループリーダー、NPO(珠洲体力づくりほのぼの会) 公民館主事の協力 	<ul style="list-style-type: none"> ふれあい講座(教育委員会：体力測定等)を活用して、地区の体力測定の習慣化・拡大を図る リハビリスタッフからの支援 	○	<ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議の開催、実際のグループへの助言
住民に対するアプローチ	<<住民にどのようなアプローチをしたか>> ・説明会・講演会等 ・出前講座 ・周知・広報 ・その他	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防講座(3回シリーズ：5地区) ①認知症予防講演会(精神科医師) ②運動機能向上 ③口腔機能向上 ふれあい講座で百歳体操の普及啓発 公民館だより、個別通知等で参加者募集 	<ul style="list-style-type: none"> H26年度未実施地区(5地区)での実施 最終的に10地区にできるように普及啓発 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の意欲維持向上の動機付け(マンネリ化対策)

<p>通いの場の立ち上げ、充実</p>	<p>《どのように通いの場の立ち上げ支援を行ったか》</p> <ul style="list-style-type: none"> モデルとなる通いの場の立ち上げ 誰が[関わった職種]、どのように[支援内容]、どれくらい[支援回数]立ち上げ支援したのか その他 	<ul style="list-style-type: none"> 上記講座等を通して、動機付け・普及啓発を繰り返し実施。 [関わった職種]保健師 [支援回数] 1～4回 	<ul style="list-style-type: none"> 26年度内容の継続・強化 リハビリスタッフからの支援 	○	
	<p>《通いの場の実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> 通いの場の箇所数 参加者数 通いの場で行われている内容 	<ul style="list-style-type: none"> 箇所数：3か所（3か月間継続可能なグループのみ計上） 参加者数：48人 内容：いきいき百歳体操、脳トレ等 	<ul style="list-style-type: none"> 26年度内容の継続・強化 1地区1か所以上に増やす（市内10地区） 	○	<ul style="list-style-type: none"> リーダーの配置
<p>通いの場を支える体制の構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> 共通ルールの設定 リスク管理の方法 サポーター・リーダー育成 評価方法 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 住民主体 週1～2回の開催 血圧測定（体調不良時は実施しない） 体力測定、主観的健康感 錘の貸し出し（無料） 	<ul style="list-style-type: none"> 26年度内容の継続 	○	<ul style="list-style-type: none"> 錘の貸し出しについて、3か月後の対応について 集会所でのイスやDVD機材の確保が困難
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> 既存事業の活用・整理 予算の確保 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 既存のNPO法人（住民が立ち上げたグループ）や既存グループでの内容の活性化 予算：地域支援事業（介護予防普及啓発・地域介護予防活動支援） 	<ul style="list-style-type: none"> 26年度内容の継続・強化 	○	

3. モデル事業を行った成果

①モデル事業を行った成果（職員の意識の変化、住民の意識の変化、住民の声など）

効果測定等のデータがある場合は、別途添付してください。

住民の声：「テレビで見たことがあり、ぜひ自分の地区でも実施したい」
「肩が痛くて上がりにくかったのに、百歳体操をしたら上がるようになった」

職員の意識の変化：従来の自主グループ育成の中で、月1回開催の継続活動が困難な場合もあった。
しかし、今回の「いきいき百歳体操」の媒体をきっかけに、住民の力「やりたい!」を引き出すための戦略の醍醐味を体感することができた。
「住民の力を信じる」ことの大切さを再認識できた。

Ⅱ モデル事業の実施を通して見えてきた「地域づくりによる介護予防の推進」に係る課題

1. 地域づくりによる介護予防の推進

新しい介護予防事業の実施にあたっては、「住民運営の通いの場」の充実だけでなく、介護予防活動の普及・啓発、住民主体のネットワークの形成、PDCAサイクルを意識した介護予防事業の運営が重要になります。以下の視点に基づき、今後地域でどのように介護予防を推進していくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	現時点での課題意識	今後の実施予定	優先度	実施時期	実施体制	実施する上での課題
介護予防活動の普及・啓発	地区全体に公民館を通じて、介護予防講演会（認知症予防・運動機能向上・口腔機能向上等）を展開し、住民主体で進めていくように促す。地域によって、意識格差がある。	住民運営の通いの場が発足しにくかった地区に、再度繰り返しながら普及啓発していく予定。今年度の評価（体力測定結果）を広報等で啓発	◎		広報、ケーブルTVを活用	
住民主体のネットワークの形成	グループリーダーが複数いると、サポートし合えて和やかに実施。	グループリーダーの研修・交流会	◎			
介護予防事業の評価	体力測定(5m歩行、握力、開眼片足立ち、30秒椅子立ち上がり)、主観的健康感について経過を記録する。ただし、春・秋期は、田畑仕事のため、百歳体操の運営は困難傾向。	初回、3か月後、(6か月後、)年1回は測定予定	○		包括職員もしくはふれあい講座(教育委員会・体育館職員)と連携しながら実施	各グループリーダーの複数配置
その他						

平成26年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業
報告シート

都道府県名

福井県

モデル市町村名

永平寺町

I モデル事業の実施状況

1. 実施体制

モデル市町村における実施体制についてご記入ください。 ※アドバイザーは計上しないでください。

①実施体制

介護予防事業及びモデル事業それぞれについて、実施体制をご記入ください。
主担当課は最上段にご記入ください。

	担当課名	主な役割分担 ※複数課にまたがる場合のみ記載	人数				計
			事務職	保健師	リハ 専門職	その他	
介護 予防 事業	福祉保健課		1 ◎	1			2
							0
							0
							0
モ デ ル 事 業	福祉保健課		1 ◎	1			2
							0
							0
							0

←主担当に◎を選択してください。

←主担当に◎を選択してください。

②連携体制

モデル事業に関する庁内及び職種間の連携について、実施内容や課題、次年度への対応についてご記入ください。

	(連携先の例)	実施内容	課題	次年度への対応
庁内 連携	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防主担当課以外の課 地域包括支援センター その他 	地域包括支援センター 保健センター 社会福祉協議会 福祉保健課	他の部署との連携はとっていない	今年度と同様の対応
職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> 事務職、保健師、リハ職 その他 	看護師、保健師、運動指導士、事務職	参加者への支援として、おもりの増量時の判断等に専門的な見地からの指導、助言が必要である。	作業療法士の指導、助言が得られるようにする。

③第6期介護保険事業計画

第6期介護保険事業計画において、介護予防の推進及び日常生活を支援する体制の整備等に関して記載した内容についてご記入ください。

地域での健康づくりを進めるためには、個々が健康づくりに関心を持ち、「自分の健康は自分で守る」という意識と健康を守るための正しい知識を身につけることが必要です。また、多くの住民が自らの健康を守る力を身に付け、将来的に生活習慣病の合併症や認知症の予防につながるような教室や訪問指導などの啓発・情報提供を充実します。

2. 住民運営の通いの場の充実

①実施内容（概要）

モデル事業で実施した内容についてチェックしてください。

- | | | | |
|---|---|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 地域診断 | <input checked="" type="checkbox"/> 戦略策定 | <input checked="" type="checkbox"/> 関係者への働きかけ | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 住民に対するアプローチ | <input checked="" type="checkbox"/> 通いの場の立ち上げ | <input checked="" type="checkbox"/> 通いの場を支える体制の構築 | <input checked="" type="checkbox"/> その他 → |

②実施内容（詳細）及び今後の課題

モデル事業で実施した内容の詳細について項目毎にご記入ください。

また、今回のモデル事業での実施経験を踏まえ、今後地域でどのように「住民運営の通いの場」を充実し、介護予防の推進をはかっていくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	平成26年度実施内容		平成27年度以降		
	(視点の例)	実施内容	今後の実施予定	優先度	実施する上での課題
地域診断		<ul style="list-style-type: none"> ・既存データの整理、地域資源の整理（人・組織）、地域資源の整理（場所・交通手段）、行政課題の整理 			
戦略策定		<ul style="list-style-type: none"> ・サロン事業に取り組んでいる地区から、会場の設備、お世話役の状況を確認しモデル地区を選定する。 ・参加者、お世話役に事業説明し取り組みへの意思を確認する。 ・モデル地区の活動状況を示しながら普及を図る。 			
関係者への働きかけ	«誰にどのような働きかけをしたか» <ul style="list-style-type: none"> ・保健所、保健センター ・リハビリテーション関連団体 ・社会福祉協議会、自治会、民生委員、老人クラブ、ボランティア、NPO ・社会教育（生涯学習や生涯スポーツ等）関係団体 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康サロンに出向く保健Cの保健師、地域包括Cの看護師にサロン会場の状況から、取り組みやすい会場を選定してもらう。（モデル地区選定） ・サロンのお手伝いをしている民生委員、自治会ボランティアに事業説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・未実施地区の担当民生委員や地区サロンのボランティアに対して事業説明を行う。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・予防事業の必要性、効果について、ボランティアや代表者へ意識付けを行う必要がある。 ・椅子や映像機材について自治会の負担を求める必要がある。

住民に対するアプローチ	<p>《住民にどのようなアプローチをしたか》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明会・講演会等 ・出前講座 ・周知・広報 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロン会場に出向き参加している住民に取組みを要請 ・広報誌、各戸配布チラシにより事業の周知 ・体験会の開催により自治会単位での取組みを要請 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロン会場に出向き事業説明を行う。 ・広報誌、回覧により、「いきいき百歳体操」の周知、取組んでいる地区のPRを行う。 ・取組んでいる地区を紹介し見学を勧奨する。 ・参加している人の勧誘で特に男性の参加を促すようにする。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・予防事業の必要性、効果について、意識付けを行う必要がある。 ・おもりやベルトについて個人負担を求める必要がある。
通いの場の立ち上げ、充実	<p>《どのように通いの場の立ち上げ支援を行ったか》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルとなる通いの場の立ち上げ ・誰が[関わった職種]、どのように[支援内容]、どれくらい[支援回数]立ち上げ支援したのか ・その他 <p>《通いの場の実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通いの場の箇所数 ・参加者数 ・通いの場で行われている内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・会場に映像機器と椅子がある谷口地区を選定。事業説明で「早速来週から始めます」となる。 ・最初の1ヶ月は毎回4～1名の支援（保健師、看護師、事務職員） ・ボランティアと打合わせし後半は月一回の支援。 ・3ヵ月後を目処に体力測定する。 ・モデル地区を含め現在活動中は5会場。その他3会場が3月末から開催予定。現在は、延べ105名の参加が見込まれている。 ・既活動地区 ABC地区10名週1回、D地区15名週2回、モデル地区20名週1回 ・今後予定地区 E地区20名週1回、FG地区10名週1回の予定 ・いきいき百歳体操終了後には、茶話会や軽スポーツに取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・椅子の無い地区には、折りたたみ椅子を貸出 ・おもりは、3ヶ月を目処に貸出 ・効果を実感してもらうために初回の体力測定（5m歩行、片足立ち、TU&G）のほか3か月を1スパンとして体力測定を実施する。 ・自治会90区の5割、45箇所での取組みを目指していく。 ・職員がかかわっていくには限界があることから、ボランティアの育成を図る。 ・体操終了後の茶話会に合わせ「かみかみ百歳体操」の導入を目指していく。 	○	<p>男性の参加者が少ないことから、男性のキーパーソンを発掘する。</p> <p>冬期間の開催については参加者の集まりが悪いということから、開催を控える傾向がある。</p>
通いの場を支える体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・共通ルールの設定 ・リスク管理の方法 ・サポーター・リーダー育成 ・評価方法 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・最低週1回の開催要請、おもりは3ヶ月間を目処に貸し出す。 ・自主的な実施の重要性、体操の効果と継続の重要性を説明。 ・最初と3か月を1スパンを目処とした体力測定は、支援していく。 ・サロン運営を手伝っていた方にサポーターを要請する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的な活動の継続と最低週一回以上を前提とした開催を原則とする。 ・立上げ当初と3か月を1スパンを目途に体力測定や作業療法士等の派遣によるフォローで、データによる評価や指導を行いモチベーションを維持してもらう。 ・サポーター育成研修会を行う。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・会場の開催状況（参加状況・効果）の把握についてボランティアとのルール作りが必要。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・既存事業の活用・整理 ・予算の確保 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存のサロンを活用し体操メニューを加え開催日を増やしてもらう。 ・体操会立上げ時の貸出用おもりを購入する予算を包括支援センター予算で確保 ・DVDや椅子など開催に必要な機材の購入に当たり自治会の予算確保を打診。 	<ul style="list-style-type: none"> ・DVDや椅子など開催に必要な機材の購入に当たり自治会の予算確保を打診。 	△	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会館が無い地区については、社会福祉法人等の施設が借りられないか打診する。

3. モデル事業を行った成果

①モデル事業を行った成果（職員の意識の変化、住民の意識の変化、住民の声など）

効果測定等のデータがある場合は、別途添付してください。

- ・モデル地区の立ち上げ当初は、女性ばかりの参加であったが、参加者から「近所の男性も参加した方が良い」、「チラシを作成して参加を呼びかけたい」という声があがった。老人クラブで活動する男性に呼びかけた結果、4ヶ月目からは、老人クラブの活動日に合わせ、男性メンバーも参加した体操会を開催している。
- ・毎回参加されている人からは、「足腰が動きやすく楽になった。自宅でも取り組みたい」と意欲的な声がある。
- ・初回測定データより少しでも測定値が上がっていれば励みになり今後の取り組みに前向きになってくれる。

II モデル事業の実施を通して見えてきた「地域づくりによる介護予防の推進」に係る課題

1. 地域づくりによる介護予防の推進

新しい介護予防事業の実施にあたっては、「住民運営の通いの場」の充実だけでなく、介護予防活動の普及・啓発、住民主体のネットワークの形成、PDCAサイクルを意識した介護予防事業の運営が重要になります。以下の視点に基づき、今後地域でどのように介護予防を推進していくかについてご記入ください。

※必ずしも全ての項目を埋める必要性はありません。今後3年間を目安に、各地域の実情に応じた実施事項をご記入の上、優先度・実施時期等についてご記入ください。

	現時点での課題意識	今後の実施予定	優先度	実施時期	実施体制	実施する上での課題
介護予防活動の普及・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に備える意識と同じように介護予防に取り組む意識はまだ低い。自分の体は自分で守る、健康な生活を守るために自主的な行動を促すような、介護予防の普及啓発が必要である。 ・自治会の集いの場となる施設が無い場合の支援方法を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予防事業への取り組みの必要性について、行政側からだけでなく、体操会に係るボランティアや参加者の口コミから伝わるような工夫を図る。 ・広報誌、回覧により、「いきいき百歳体操」の周知、取り組んでいる地区のPRを行う。 	○	随時	福祉保健課 民生委員 ボランティア	CATVの活用
住民主体のネットワークの形成	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会における見守りネットワークの形成は90中39地区にとどまっている。 ・老人クラブ（30）の活動低下、会員数（約2千人）の減少が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会、NPO、老人クラブとの連携とともにボランティアセンターの活動支援を図りながら、ネットワークを育てていく。 	○	随時	福祉保健課 社会福祉協議会 老人クラブ連合会	
介護予防事業の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者個人の評価については、3か月1スパンを目処に体力測定やアンケートによる評価が必要である。 ・自治会ごとの開催状況について把握していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者個人の評価のほか参加者の年齢構成、男女比、住民同士の勧奨状況を評価していく ・個人の評価時には、作業療法士の指導を行い生活行為向上や参加者の意欲向上を図る。 	○	3ヵ月ごとのスパンを目処に実施	福祉保健課 地域包括支援センター 保健センター 作業療法士	
その他						